

筑後国木屋彈正左衛門尉行實申軍忠事

加一見了（花押 五條良氏）

右為御對治大宰筑後守頼尚同直資以下凶徒
去七月十九日御渡筑後河之時、令御共、於河北
岩田、福同原御陣、日夜致警固之忠、同八月
六日夜、大保原御合戰之時、為東手先勢十
八人其隨一最前切入、自丑剋至同七日巳剋、抽
軍忠之間、若党又五郎、惣扶持人二郎三郎被
疵、四郎三郎、弥二郎討死訖、然早下賜御判、
為備龜鏡、言上如件

正平十四年八月 日

筑後の国木屋彈正左衛門の尉 ゆきざね軍忠申すの事

一見を加えおわんぬ

右 大宰筑後の守 頼尚 同じく直資 以下凶徒御對治のため、
去る七月十九日 筑後河 御渡りの時 御供せしめ 河北
岩田 福同原の御陣において 日夜 警固の忠を致し 同八月
六日夜 大保原御合戦の時 東手の 先勢 十八人
其の随一として 最前に切り入り 丑の剋より 同七日巳の剋に至る
軍忠抽んでの間、若党又五郎 惣扶持人二郎三郎 疵を被り
四郎三郎 弥二郎 討ち死におわんぬ 然らば早く御判を下し賜わらん
龜鏡に備えんがため 言上件の如し

正平十四年（一三五九年）八月